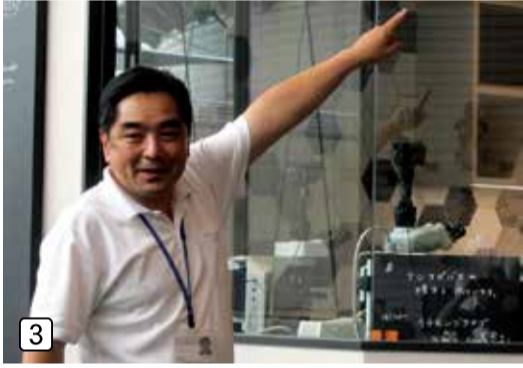


ナチュラリストの

フィールド日記

316

中川宗孝(環境生物研究会・城陽環境パートナーシップ会議)



◎新種の淡水魚を
追って
和東町で7月12
日に開催された自
然観察会に於いて、
淡水魚の担当講師・
林博之先生から昨年
に新種登録されたナ
ガレカマツカが生息
する可能性があるこ
とを伺いました。和

東町の生き物調査で
も新たな発見で成果
を残したいと熱望す
るナチュラリスト、
淡水魚では南山城地
方で生息記録のない
絶滅危惧種・スナヤ
ツメ発見の目標も、
ギブアップ寸前のと
ころでがぜんやる気
を伺いました。和

なる魚をターゲット
に暑い暑い川詣での
日々が始まりました。
そうした7月の
23日、ジュニアメン
バー・松井優樹君(写
真①)右との探査で
ようやくカマツカを
捕獲することがで
きました。林先生によ

ナガレカマツカであ
ろうとのお墨付きを
いただきました。和
東町のお宝生物に、
林先生とゆかりのア
カザ(写真②)とス
ジシマドジョウ(同
下)に次いで、新種の
淡水魚・ナガレカマ
ツカ(向右)が加わり

翌日にはナガレカ
マツカの詳細を知る
べく琵琶湖博物館に
駆け付け、入館制限
の整理券制も強行突
破し、松田征也先生
(写真③)と中井克樹
先生を訪ねました。
琵琶湖博物館の前
身・琵琶湖文化館の
館長だった松田尚一
先生を、筆者の父親
が木津川にもアユド
ジョウと呼ぶアユモ

ドキがいると案内し
たことが縁でお世話
になり、当時は展示
されていなかったバック
ヤードのイタセンバ
ラを見せていただき
たことが後に木津川
での発見につながり
ました。そして、お父
様の後を継がれた淡
水魚が専門の松田征
也先生には、外来種
かと思われたアユモ
ある木津川産のシジ

ミが在来種のマシジ
ミであったことや、
干拓前の巨椋池に生
息していた30センチを
超えるイケチヨウガイ
が旧家に残されて
いて、その貴重性を
解説いただき、以後
で大いに役立ちまし
た。

今回、突然のアポ
なし訪問にも快く対
応頂き、厳重に保管
されているナガレカ
マツカの標本を特別
に見せていただき
ました。正直なところ
、カマツカとの区
別も自信はありませ
んでしたが、いくつ
かの識別ポイントを
確認することができ
て大変参考になりま
した。もちろん門外
不出の貴重な標本
で、データと共に写
真記録も叶いません
が、展示されたばか
りのナガレカマツカ
の生体を中井克樹先
生にご案内いただき
ました。(写真④⑤)

鈴鹿山系のニホン
カモシカの保護活動
で知り合った中井さ
んとは、1985年
の阪神タイガースが
日本一に輝いた日、
みんなで六甲おろし
を歌いながら祝杯を
挙げた楽しい思い出
がよみがえります。
以後30数年を経て、
我が家名物・木津川
産天然スッポン鍋
を囲む常連となり、
度々当活動報告にも
登壇いただしていま

す。昨年には、新設
のカメの展示コー
ナーで協力し、宇治
田原町でのオリジナ
ルモノドリの水
映像の撮影時には、
カジカガエルの鳴き
声を確認し、希少種
の生息記録の現認者
にも登録です。
そんなお二人に
えるべく、ナガレカ
マツカの京都府での
公式記録公表を託す
林博之先生(写真⑥
右)共々、あらゆる漁
具を揃えて捕獲確認
に挑み、ジュニアメ
ンバーを伴って宇治
田原町などにも探索
の範囲を広げていま
す。(写真⑦)

8月
16日になってようや
く念願の雌雄の採集
に成功しましたが、
その間の文献資料検
索の過程に於いて、
新種登録の研究者が
先のイケチヨウガイ
の所有者・木下富美
さんのお孫さんの富
永浩史さんであるこ
とが分かり、何とい
う巡り合わせと驚き
ました。兵庫県在住
の自慢のお孫さんの
著書もいただいでい
た今年卒寿を迎えら
れる元気なおばあさ
んに、実に15年ぶり
に引き合わせてくれ
たナガレカマツカで
した。(写真⑧)

新種の淡水魚・ナガレカマツカ顛末記(上)

まだまだフィールドの女神に愛されしナチュラリスト健在！…新種発見の朗報続編をお待ち下さい。…と、テンションMaxでお届けした前回の報告からひと月近くが経ちました。全国のナチュラリスト仲間からも励ましの便りが届き、久々にフィールドの鬼の復活で、和東町の生き物調査に花を添える新種の淡水魚・ナガレカマツカ発見！の公式発表もすぐのことと思われましたが、現実はそんなに甘いものではありませんでした。

地元・城陽市の木津川で天然記念物のイタセンパラを発見し、南山城村では絶滅寸前種の本トケドジョウにカワバタモロコなどの新発見が自慢のナチュラリストも、本来専門外である淡水魚の分野では多くの先生方にお世話になってきました。淡水魚の研究者・林博之先生とは、社会人講師として訪れた城陽高校で出会い、ちょうど歴史民俗資料館からの依頼で作成していた「木津川魚類リスト」に、当時国内外来種として定着しつつあるヌマチチブの最新情報追加の進言を受けたことに始まります。

以後今日まで四半世紀、やはりナチュラリストの川仲間・水野尚之先生共々、南山城各地の淡水魚調査に赴き、文献資料として残るマスコミ報道など数多くの胸を張れる成果を得てきました。もう15年前の宇治田原町から委託された調査では、当時南山城地方で生息記録がない絶滅危惧種の「アカザ」の発見を目標にしましたが、早速、下見の林先生に先を越され、リベンジとばかりに絶滅寸前種の「スジシマドジョウ」の発見を果たした懐かしくも楽しい思い出がよみがえります。

そしてここでのエピソードが、このスジシマドジョウが平成18年に刊行された宇治田原町レッドデータブックに記載され、近年のDNA研究によって新種分類される「ヨドコガタ…？」の可能性があると研究者の目に止まり、遠方から大挙して何日間も調査に来られたといえます。後になって、発見者が筆者であることを知った研究者から連絡が入り、あらためて田原川支流のポイントを伝えて現地案内するとの申し出も、予算や日程の都合で叶わず、謎を残したまま環境省の「絶滅種」に掲載された経緯がありました。

鳥類研究者として宇治田原町の「野生生物生息環境調査」に携わり、両生・爬虫類から哺乳類や淡水魚、水棲昆虫まで調査対象を拡げることができ、様々な発見に後押しされて「南山城鳥類目録」に次いで「南山城野生生物生息リスト」の作成をライフワークとしてきました。「鳥は環境を測るモノサシ」であり、豊かな自然環境には多くの野生動物たちが生息できる「環境指標生物」の法則より、郷土の自然財産である生き物たちの記録を環境資料として次代に残すことをナチュラリストの使命と感じて活動を続けています。

宇治田原町と南山城村での野生生物生息調査の成果は、所属する日本鳥学会と日本爬虫両棲類学会の大会で配布資料を添えて発表し、毎年12月に開催される京都環境フェスティバルでの資料公開を年中行事としてきました。そして現在、宇治田原町と南山城村に隣接する和東町を舞台に生き物探査を楽しんでいます。ナチュラリストの最後の？お勤めの地となる和東町でのお宝生物発見！の白羽の矢が立ったのが、南山城地方では生息記録のない絶滅危惧種・スマヤツメでした。そして、その調査の過程で昨年新種に分類されたカマツカの仲間の生息の可能性が生まれ、暑い暑い夏が始まりました。

7月23日に和東川で捕獲したカマツカが、林先生によって新種のナガレカマツカと同定され、ワクワクの追認調査が始まるも…。思いのほか大変だった再発見までの記録と、新種の淡水魚を巡る思わぬエピソード・繋がりあう人の環の嬉しい再会物語を添えてお届けするフォトレポートにお付き合い下さい。

さて、昨年には、新設のカメの展示コーナーで協力し、宇治田原町でのオリジナルモノドリの水映像の撮影時には、カジカガエルの鳴き声を確認し、希少種の生息記録の現認者にも登録です。そんなお二人に

えるべく、ナガレカマツカの京都府での公式記録公表を託す林博之先生(写真⑥右)共々、あらゆる漁具を揃えて捕獲確認に挑み、ジュニアメンバーを伴って宇治田原町などにも探索の範囲を広げていま

す。(写真⑦) 8月16日になってようやく念願の雌雄の採集に成功しましたが、その間の文献資料検索の過程に於いて、新種登録の研究者が先のイケチヨウガイの所有者・木下富美さんのお孫さんの富永浩史さんであることが分かり、何という巡り合わせと驚きました。兵庫県在住の自慢のお孫さんの著書もいただいでいた今年卒寿を迎えられる元気なおばあさんに、実に15年ぶりに引き合わせてくれたナガレカマツカでした。(写真⑧) 以下次号